

## 普及活動の成果

課 題 名	畜産クラスターの取り組みによる畜産産地づくり	振 興 局 名	五島振興局
活 動 対 象	五島地域畜産クラスター協議会・JAごとう肉用牛部会・五島地域養豚研究会	実 施 期 間	平成30年4月～平成31年3月

## 【対象の概要】

五島地域の畜産は肉用牛繁殖経営が盛んで、飼養農家戸数 289 戸、飼養頭数は約 4,500 頭と五島地域の農業の基幹品目となっている。また、養豚経営は 6 戸で、うち法人経営が 3 経営体と雇用を取り入れた企業的農業を行っている。

## 【課題設定の背景】

五島地域における畜産は高齢化や後継者不足の進行から、農家戸数並びに飼養頭数は年々減少しており、肉用牛においては五島牛の産地の維持・拡大が喫緊の課題となっていたが、平成 27 年に島地域畜産クラスター協議会を立ち上げ、地域課題の解決に向け関係機関一体となって支援を行っている。

特に規就農者や規模拡大意向農家に対し、畜舎等の施設整備や生産性向上に資する機械導入等への増頭対策支援を行った結果、除々にではあるが飼養頭数が増加に転じてきたが、今後、廃業する農家が増えることが想定されることから引き続き支援を行う必要がある。

また、飼料費、資材費が高止まりにより経営を圧迫しており、安定した経営を確立させるためには、更なる生産性の向上が必要であり、肉用牛経営においては分娩間隔の短縮及び子牛発育の向上、養豚経営においては多産系種豚の導入、パンチキグシステムの推進を行う

## 【活動目標】

五島牛の産地維持拡大。生産性向上対策の推進。五島産豚の産地規模拡大支援。

## 【関係機関との連携（活動体制・役割分担）】

五島地域畜産クラスター協議会

（構 成 員）ごとう農業協同組合（畜産部）、五島市（農業振興課）、新上五島町（農林課）、県南農業共済組合五島支所、五島振興局（農業振興普及課、家畜保健衛生所）、五島市（農業振興課）、肉用牛繁殖農家、養豚農家、肉用牛ヘルパー組合、コントラクター（集落営農等）

（事 務 局）JA ごとう

（活動内容）農協による肉用牛繁殖牛飼養とキャトルセンターの増設、農協リース牛舎による飼養規模の拡大、高性能機械等の導入による飼料生産面積の拡大と自給率向上、コントラクターによる飼料基盤の充実、肉用牛ヘルパー組合の利用によるゆとりある経営の実現、放牧の推進による省力化、キャトルセンター利用によるゆとりの創出、豚舎建設による規模拡大

## 【活動経過】

## 1. 五島牛の産地維持拡大

## (1) 五島地域畜産クラスター協議会の運営支援

地域畜産の課題解決に向け、地域クラスター計画に沿って 2 ヶ月に 1 回協議会を開催し、情報の共有化、推進方策等の検討を実施した。

## (2) 増頭対策支援

新規就農者 4 名、希望拡大意向農家 8 名について、増頭計画作成支援を行うとともに、国庫、県単事業を活用した施設整備や導入事業について支援を行った。

また、次年度に規模拡大を希望する 4 戸（新規就農 2 戸、規模拡大 2 戸）についても事業化に向け打ち合わせを、関係機関を交えて行い、計画の熟度を高めた。

## 2. 生産性向上対策推進

## (1) 繁殖成績・子牛発育向上

肉用牛後継者グループに対する繁殖成績改善・子牛発育向上の勉強会や、クラスター取組農家の巡回指導を行った。また、2月にJA肉用牛部会を対象とした肉用牛大学を開催し、分娩間隔の短縮に関する講演会を開催し、生産者の理解醸成に努めた。

## (2) 経営体質強化

経営体質強化資金借受者2戸の農家に対して、関係機関を交え、巡回指導を行い、繁殖・子牛発育・経営指導を行うとともに、繁殖成績の悪い農家については飼料分析を実施した。

## (3) 出荷データに基づく農家支援

11月下旬に畜産コンサルタント事業を実施しており、畜産協会が作成する助言書をもとに、面談を行った。

## 【普及活動の成果】

## 1. 五島牛の産地維持拡大

(1) クラスター協議会を定期的開催し、関係機関での情報の共有化が図られ、円滑な連携が図られた。

(2) 国庫、県単を活用し、10件、303頭の増頭が可能となる牛舎が整備できた。

また、ｸﾗｽﾀｰ事業による繁殖雌牛の導入では273頭が導入され規模拡大につながった。

## 2. 生産性向上対策の推進

(1) 繁殖成績・子牛発育向上：定期的な巡回指導を実施し、農家の繁殖成績や子牛の発育成績の改善意欲は高まった。

(2) 経営体質強化：飼料分析により、粗飼料のタンパクが低いことが判明したので、施肥指導等行うなどし、一段掘り下げた指導ができた。

(3) 出荷データに基づく農家支援：繁殖成績が悪い農家については、意識改善につながり、今後、分娩間隔の短縮が期待される。



異業種参入推進による新規就農の掘起し



平成30年度肉用牛大学による分娩間隔の講演会

## 【対象の声】

- ・繁殖雌牛は着実に、増加している。
- ・事業の進め方等について、相談ののってくれている。今後とも支援をお願いしたい。

## 【今後の課題】

- ・現在、肉用牛の飼養頭数は規模拡大支援の効果もあり増加しているが、今後も高齢農家の廃業が続くことが想定させるため、引き続き規模拡大支援を継続するとともに高齢者の飼養延長方策についても検討していく必要がある。
- ・生産性の向上については、農家の意識により成果に差がでてきているため、次年度より指導農家を選定し、重点的に支援していく必要がある。

## 【成果の活用及び普及活動上の留意点】

## 【発表・参考資料】